

# 「十和田八幡平国立公園十和田湖地域 高付加価値なエリア実現に向けた基本構想」

## 事業者対話 結果概要

令和6年3月25日

環境省 東北地方環境事務所

十和田八幡平国立公園事務所

### 1. 趣旨

環境省では、インバウンド需要が急速に回復する中、“国立公園の美しい自然の中での感動体験を柱とした滞在型・高付加価値観光”を推進することとし、国立公園の利用の高付加価値化の方向性と、国立公園ならではの感動体験を提供する宿泊施設を中心とした利用拠点の面的な魅力向上に取り組む先端モデル事業の進め方を検討し、令和5年6月に『宿舎事業を中心とした国立公園利用拠点の面的魅力向上に向けた取組方針』（以下「取組方針」といいます。）を公表しました。取組方針を踏まえ、令和5年8月に『国立公園における滞在体験の魅力向上のための先端モデル事業』の対象として、十和田八幡平国立公園十和田湖地域を含む4つの国立公園を選定し、魅力向上に向けた基本構想の検討に着手しています。

十和田八幡平国立公園十和田湖地域においては、今般「十和田八幡平国立公園十和田湖地域 高付加価値なエリア実現に向けた基本構想」（以下「基本構想」といいます。）を取りまとめたところです。検討段階においては、基本構想に基づく取組を、民間資金等を活用した官民連携のもとに実施するため、民間事業者の皆様から広く意見・提案を求め、対話を通じて実効性・実現性のある事業スキームを構築することを目的として、事業者対話を実施しましたので、その結果の概要について公表します。

### 2. 調査概要

■個別対話の実施期間：令和6年2月1日（木）～2月21日（水）

■参加事業者の主な業種 ※業種は「日本標準産業分類」の大分類に基づき整理

○宿泊業    ○運輸業    ○電気・ガス・熱供給・水道業    ○情報通信業    ○技術サービス業  
○不動産業    ○娯楽業    等    計14社

### 3. 参加事業者との対話で得られた主な意見・提案

#### I. 基本構想案について

- 「現状整理」については、以下のような意見がありました。
  - ・交通アクセスが課題（冬季の公共交通休業、移動手段確保が困難）【意見多数】
  - ・交通アクセスが地域住民のくらしの利便性低下や、観光客の来訪機会損失に繋がっている
  
- 「地域の目指す姿・基本理念」については、以下のような意見がありました。
  - ・4つの基本理念の立案を理解する【意見多数】
  - ・「十和田八幡平国立公園ならでは」を強く押し出すこと、及びその要素の磨き上げ（高付加価値化）に向けた取り組みを充実させることを求める【意見多数】
  
- 「取組方針・施策の方向性」においては、以下のような意見がありました。
  - 自然・景観・文化の持続性 について
    - ・廃屋撤去の必要性は理解する一方で、その跡地の有効な利活用方法まで見据えた検討が必要【意見多数】
    - ・保全に向けた意識醸成を図るとともに、利活用のバランスも取りながら、現状の価値を魅力あるものとして伝えることが重要
    - ・インバウンドの来訪も意識し、環境保護・環境配慮の姿勢を適切に表明すべき
  
  - くらしの持続性 について
    - ・交通インフラ（移動手段）の整備や、地域医療・防災のサービス向上が必要【意見多数】
    - ・交通インフラのサービス向上には、ある程度長期的な視野をもって取り組む必要がある
    - ・地域のくらしの様子そのものが、地域固有の価値としてツーリズムの目的になる可能性を秘めている
    - ・地域住民のみならず、この地域で働く従業員の居住環境の充実が必要
  
  - 観光（なりわい）の持続性 について
    - ・季節変動による影響を低減し、年間を通して観光客に訪れてもらう仕組みの構築が、観光の持続性の観点では重要【意見多数】
    - ・地域の本質・価値に迫れるような観光体験の提供が有効【意見多数】
    - ・大規模集客の追求ではなく、小規模な集客を日々積み上げていくことが、環境負荷低減やマンパワー不足への対応に有効
    - ・インバウンドの取り込みを積極的に考えていくべき
  
  - 取組の持続性 について
    - ・地域に根付いている事業者や住民が、地域のキーマンやリーダーとなって主体的に参画し、地域住民や民間事業者らが協働し持続可能な体制を築いていくことが重要【意見多数】

## II. 事業参画の可能性について

### ■想定する事業内容・活用できそうなソリューションの内容

- 以下のような提案がありました。
  - ・既存の宿泊施設との差別化を図った施設導入
  - ・季節限定の宿泊施設の設置
  - ・食の魅力を伝えるレストランと一体となった宿泊施設
  - ・自動運転導入に向けた技術
  - ・MaaS や電動モビリティのサービス構築
  - ・アプリ・システムを活用したオンデマンド交通やライドシェアサービス
  - ・地域周遊に寄与する、レンタカー・カーシェアリングサービス提供
  - ・地域への安定したエネルギー供給や生活インフラの保守サービス提供
  - ・十和田湖地域の真の価値に触れられるアクティビティプログラムの企画・実施
  - ・ロボティクス技術を活用した省人化の仕組み
  - ・観光施策や事業採算性検討に活用可能な人流・購買データの可視化
  - ・最新デジタル技術を活用したコンテンツ整備・情報アーカイブの取組 など

### ■参画によるメリット・ベネフィット、地域にもたらす効果

- 宿泊施設については、以下のような意見がありました。
  - ・既存施設との差別化を図ったサービス提供により、新たな客層・観光客の呼び込みが期待できる
  - ・小さな施設規模であっても、国立公園内というだけで十分なインパクトが期待でき、地域の自慢（PR 要素）として位置づけていくことも有効
  
- 交通サービスについては、以下のような意見がありました。
  - ・来訪者のニーズに応じた移動をサポートすることで、観光の高付加価値化に寄与することが期待できる
  - ・交通利便性の向上は、くらしと観光の両方の持続性に寄与する
  
- その他、以下のような意見がありました。
  - ・安定したエネルギー供給や生活インフラの保守サービスは、地域住民に対してだけでなく、観光客が安心して訪問できる要素として有用
  - ・アウトドアのアクティビティ提案については、アウトドアに主体的に取り組みたいとの地域意向を確認のうえ、現地のポテンシャルや自然環境の価値を十分に調査・分析し、適切なプログラムを提供することが重要
  - ・最新のロボティクス・デジタル技術を活用し、人手不足の課題への対応、歩行弱者の移動支援への対応、居心地のいい観光体験提供や新たなファン獲得への対応、地域の文化や情報のアーカイブへの対応等、ニーズに応じた解決策の提案が可能
  - ・データ可視化の提案については、今後、さまざまな事業者が事業参画を検討するにあたり必要な来訪者特性分析やマーケティング調査への活用に向けて整備を行う

### ■参画における課題・条件

○以下のような意見がありました。

- ・地域人口の減少に伴う働き手の確保が困難であり、従業員の居住環境整備が必要【意見多数】
- ・事業参画における規制緩和や補助メニューの充実、必要な費用の確保等、行政支援に関する情報提供を望む【意見多数】
- ・地域における道路等のインフラ整備、公共交通の通年営業の実現、安定した通信環境の確保等を望む
- ・事業参画にあたり、事業者間での情報共有やニーズ調査が可能な場づくりを望む

### ■地域との連携・巻き込みに関する可能性や手法

○以下のような意見がありました。

- ・地域の方が主体的に参画し取り組むための機運醸成が重要【意見多数】
- ・地元事業者との連携によるプラン・プログラム等の開発や観光ガイドの実施、地域住民との協働によるサービス構築等、地域に熟知した方の参画を希望する
- ・宿泊業については、宿泊者の食事やアクティビティ体験は既存施設等との連携による提供、従業員の雇用は地元の方を主とした対応を希望する
- ・デジタル技術活用の中で、学校の学習でアーカイブ技術を活用し、地域の文化や歴史を伝達し将来の地域教育にまで波及できることも有効

### III. その他のアイデア・意見・要望

○以下のような意見がありました。

- ・持続可能な事業展開に資する、各種データ収集・解析のためのデータプラットフォームの導入が必要
- ・担い手が不足する場合は、興味のある地域の方を集めてワークショップを実施したり、地域イベントとの連携により自立できるための支援を行うことも可能
- ・「くらし」と「観光」を同時に考えるのは難しく、十和田湖地域において何を強みに据え、ターゲットをどうするかを見定めることが重要

#### 4. 今後の予定

今回の事業者対話の結果を踏まえ、高付加価値な国立公園づくり及びまちづくりに向けて基本構想に位置づけた取組を推進します。特に、令和6年度以降は利用拠点と位置づけた休屋・休平地区におけるマスタープランづくりを進めることとしており、いただいた提案等を参考に宿泊事業の誘致や地区内のハード・ソフト両面での環境整備について、実施手法・事業条件等の具体的な内容の検討、また事業者募集に向けた検討をさらに進めて行く予定です。

マスタープランづくりの過程においても、事業者対話を継続的に実施する予定です。

以上